リハビリテーション医学

【単位数：0.5単位，授業8コマ，予備2コマ（定期試験含まず）】
当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1　科目責任者

尾川貴洋　教授　（リハビリテーション医学講座）

2　教育目標

（１）　ねらい（Ⅰ-5-b，Ⅰ-12-b）

① コンピテンスの「プロフェッショナリズム」を修得するために，多職種医療チームの責任者として，患者と家族に対して全人的に対応出来る能力を養う。

② リハビリテーションの対象である障害と生活機能の診断及び評価方法，リハビリテーション目標とプログラムの作成方法，多職種の役割，リハビリテーション治療手技，医療・介護・福祉との連携方法を理解し，クリニカル・クラークシップで，これらの技術体系を有効に活用する準備ができる。

（２）　学修目標

① リハビリテーション医学・医療の概念を説明できる。
② リハビリテーション医療に関する基本的な診断法や多職種連携による治療法について説明できる。
③ リハビリテーション基礎医学として必要な解剖学や生理学を説明できる。
④ リハビリテーション医療に関する義肢装具療法・社会的資源・障がい者スポーツについて説明できる。
⑤ 運動器疾患に対する基本的なリハビリテーション治療について説明できる。
⑥ 内部障害に対する基本的なリハビリテーション治療や栄養管理について説明できる。
⑦ 脊髄損傷・神経筋疾患に対する基本的なリハビリテーション治療について説明できる。
⑧ 脳血管障害・高次脳機能障害に対する基本的なリハビリテーション治療について説明できる。

3　成績の判定・評価

（１）　総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100％	多肢選択問題
態度	○	―	態度不良の場合は，総合成績から10点を限度に減点をする。

出席：　定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

（２）　合格基準

評価対象の合計が60％以上（又は60点以上）で合格とする。

（３）　再試験・再評価の方法

定期試験が60％未満の場合は，再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する（60％以上で合格）。

（４）　課題（試験やレポート）へのフィードバック

試験で正答率の低かった問題，理解が不十分と思われた問題について，解説を一斉メールする。

4　教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5　参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
総合力がつくリハビリテーション医学・医療テキスト	久保俊一・田島文博 総編集	日本リハビリテーション医学教育推進機構	リハビリテーション総論・各論の基本が網羅的に記載されている。入門書として適している。
リハビリテーション医学・医療コアテキスト　第2版	久保俊一 総編集	医学書院	リハビリテーション医学・医療のコアとなる部分について臨床面を中心にとりあげている。

6　準備学習（予習・復習）

予習：　特別な予習は要求しないが，可能であれば，参考図書のどれかを選んで，その目次全体からどのような事項が取り上げられているのか確認しておく（1コマあたり約15分）。

復習：　講義の内容を中心に図書を参考にしながら理解を深めることを期待する（1コマあたり0.5時間）。

7　授業計画

（１）　講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが，講義中，一部，講師との質疑応答などを導入する。

（２）　講義の内容

1コマ目に総論としてリハビリテーション医学の基本概念と体系を解説し，2コマ目以降，リハビリテーション全体に共通する技術，制度と，各疾患・障害に対する治療について，具体的な内容を提示しながら進めていく。